

幸いなことよ。その背きを赦され、罪をおおわれた人は。幸いなことよ。主が咎をお認めにならず、その霊に欺きの
ない人は。私は自分の罪をあなたに知らせ、自分の咎を隠しませんでした。私は言いました。「私の背きを主に告白
しよう」と。すると、あなたは私の罪のとがめを赦してくださいました。 詩篇 32 篇 1-2, 5 節

同窓生



齋藤 美穂 (丸山43回生 Lauren)

皆さん、こんにちは！ 年長から高校まで明泉で学び、留学プログラムにも参加した齋藤美穂です。2022年に全日本空輸(ANA)のシアトル支店に就職し、約3年間勤務しています。仕事で英語をほめていただくことが多いの

ですが、これは明泉の楽しく前向きな学習環境のおかげだと強く感じます。読み書きは苦手でしたが、明泉の授業を通して英語を学ぶのが本当に楽しく、今でも歌などを覚えています。

明泉に通っている子どもたちに伝えたいのは、心から英語への情熱を育ててほしいということです。誰かに言われたからではなく、自分自身が楽しむことを原動力にしてください。熱意ゆえに周りに理解されず、集中しにくいこともあるかもしれませんが、でも、ぜひ諦めずに続けてほしいと願っています。皆さんの努力と進歩は、必ず周囲を刺激し、私自身が明泉で経験したように、先生方や大切な仲間との絆を育むでしょう。実際、私は明泉で出会った親友たちや元明泉の先生方とも、今なお交流しています。

最後に、私が今ここにいられるのは、家族、特に母のおかげです。私の教育を支え、明泉



▲隣の2人はフレンドの頃からの親友(本人は一番左)

での学びを可能にしてくれた母には心から感謝しています。自立したことで、母の犠牲がいかに多かったかを深く実感しました。皆さんも、ぜひご両親に感謝の気持ちを伝え、一緒に過ごせる時間を大切にしてください。

人生の良い出来事も悪い出来事も、すべてに意味があり、その人にとって完璧なタイミングで起こっていると信じています。皆さんの成長を信じ、英語学習に喜びを見出し続けてください。そうすることで、皆さんの英語力は世界を舞台に輝き放つでしょう。

Friends Summer 2025

「読む」とつながる。「読む」とひろがる。

MeySen
Newsletter
No. 211



ベガルタ仙台 サッカー＆チアダンス教室

5月19日に高森で、27日に丸山で、ベガルタ仙台の幼稚園キッズサッカーキャラバンが開催されました。ベガルタで長年活躍した梁勇基さん(現クラブコーディネーター)や富田晋伍さん(現クラブコミュニケーター)をはじめ、たくさんのスタッフの方と一緒に年長の子どもたちがボールを追いかけていました。

同時開催のチアダンス教室では、ベガルタチアリーダーズから2人のリーダーさんが来園。ポンポンを揺らしながら音楽に合わせてダンスする年長さんの笑顔は、ポンポンと同じくらいキラキラ輝いていました。

将来、選手やリーダーとしてフィールドに立つ子どもたちもいるかもしれませんね！



Get Ready for the
Summer

Adventures!



Lots of excitement around the corner!

いよいよ夏休み、たくさんのワクワクが待っています！興味のあることにたっぷり時間をかけたり、家族や友達とお出かけしたり、たくさん思い出をつかって始業式に戻ってきてくださいね！

アートの日

ブルーシートの上にいろんな形の段ボール箱が並び、子どもたちを待ち受けます。今日は楽しみにしていたアートの日、「塗たくり」です。筆や刷毛にたっぷりの絵の具をつけて豪快に線を引いていきます。ローラーで広い面を塗りつぶしたり、スポンジをスタンプのように使って模様を作ったり。だんだん心が解放されて、そのうち自分の手や足を使って塗っていく子どもたちも出てきます。



塗たくり(年少)

思いっきり表現してみよう！

いろんな色をまぜて新しい色ができたり、きれいなキャンパスがたちまちカラフルに彩られる様子に大満足です。先生やボランティアの保護者も塗たくられる対象です。「もう終わってしまうの」との声が出るほど、子どもたちは、楽しい時間を過ごしました。1学期にはほかに「オリジナル傘の制作」や「油粘土をさわろう」を行いました。自分だけの色と模様の傘を作って得意げに差す子どもたち。油粘土の



油粘土をさわろう(年中)



初めての感触にドキドキしました。幼稚園の「アートの日」は、2016年に始まりました。答えが決まっていらない活動で、自由に表現してみることが大切になっています。子どもたちが持っている想像力・創造力が豊かに発揮されることを期待しています。



自分の傘をつくらう(年長)

丸山に新しいロバとポニーが来たよ！

丸山キャンパスで長年親しまれてきたロバのポーキーが高齢のため引退し、新しいロバが来ました。温かみのある茶色の毛から、シナモン(Cinnamon)と名づけました。ポーキーよりも高い声で鳴きますよ。また、白黒の毛並みのポニーも仲間入りしました。名前はミトン(Mittens)です。なぜこの名前になったか、写真や実物を見るとわかりますよ！2頭とも青森県から来た6歳の女の子です。遊び時間にたくさん話しかけて仲よくしてくださいね。



ミトン

同じ白黒のオレオとは顔の模様が違い、ミトンは鼻に茶色の筋があります。



シナモン

少し臆病な性格なので、びっくりさせたりせず優しくさわってね！

明泉に復帰してくれた英語の先生

Welcome back to MeySen!
We missed you!

アイザック & ゲイル



▲丸山プリミアG6のアイザック先生



▲丸山プリミアK4のゲイル先生 (右はPSK日本語担当の曾我康恵先生)

丸山プリミアのアイザックとゲイルです。今年度、日本に戻ってきました。3年前に明泉で英語を教えていましたが、退職してアメリカに帰国後、私は子ども担当の牧師をし、ゲイルは保育施設でアシスタントマネージャーをしていました。ユタ州での暮らしと仕事は楽しく、娘のポーも生まれて今年で2歳になりました。

高森プリミアのセーラと丸山プリミアのダンです。私たちは2019年から明泉ですばらしい3年間を過ごしました。当時、私はプリミアG2の担任を、ダンはG4の担任を務めながらトレーナーもしていました。明泉で働くのは日々楽しく、生徒や同僚の先生たちとたくさんの思い出を作ることができました。ですので、2022年にアメリカに帰国しなくてはならなくなった時は、家族の事情や大学を卒業するという目的があったとはいえ、決断するのがとても難しかったです。帰国後は、アメリカの学校で2年間教鞭をとり、大学で修士号をもらいました。その後、ダンはドイツで8カ月ドイツ語を勉強し、私はスペインでスペイン人に英語を教えていました。さまざまな経験を積んだり家族と豊かな時間を過ごしたりしていましたが、日本に戻りたい気持ちは絶えることなく、友人や生徒をとても懐かしく思い、日本でやり残したことがあると感じていました。そして今、明泉でまた教壇に立つ毎日にとってもワクワクし、ここが自分の居場所だと思っています。

英語の先生は、アメリカをはじめいろいろな国から来て明泉で働いています。家庭の事情などで退職し帰国する先生もいる中、ふたたび戻ってきてくれる先生がいることはとてもうれしいことです。今年度も明泉に復帰してクラス担任をしていてくれる先生がいますので、なぜ明泉に戻ってきてくれたのか、その理由を尋ねてみました。

私たちがなぜ日本に戻り、明泉で再び働くという決断をしたか、不思議に思われるかもしれませんが、その答えは、私たちにとって日本が自分のホームともいえる存在になったからです。仙台での生活はとても快適で、アメリカに戻ってからもよく思い出していました。また、明泉で英語を教える仕事は私たちに大きな喜びだったため、アメリカでの暮らしは充実していたものの、明泉の子どもたちや教師生活が懐かしくてたまりませんでした。日本にいる間に築いた人々とのつながりも忘れられず、またそのコミュニティの一員になりたいと思ったのです。日本は非常に安全なので、今ここで娘を育てられることもうれしくてたまりません。これから仙台と明泉でどんな未来がひらけていくのか楽しみです。

ダン & セーラ



▲高森プリミアG1のセーラ・コーダー先生



▲丸山プリミアG3のダン先生

仙台では、家を借りてJuno(ジュノ)という名前の黒いラブラドルレトリバーの子犬を飼っています。とても元気な子犬で、庭に植えたばかりの花を食べてしまうほどですが、そんなJunoがかわいくてしかたありません。生徒の皆さんに寄り添い、最高の学習経験を提供できるようがんばります。



同窓会からフードバンク仙台に食品を寄付しました

宮城明泉学園同窓会は、毎年恒例の活動としてフレンズデーでフードやドリンクを販売します。今年は準備しておいたミニチュロスとフランクフルトソーセージが余ったことから、6月20日にフードバンク仙台様を訪問して寄付しました。物価高で食事に困る家庭が増えているというニュースも聞かれますので、今回の寄付が少しでもそれらの方々の支援になることを願っています。



▲フードバンク仙台理事の小椋亘さん(写真左: Douglas 高森22回生)と丸山英語部のデイビッド先生



▲青木裕次同窓会会長(Darrell 丸山111回生)よりチュロスとソーセージをお渡ししました

資困と飢餓をなくすことを目標に活動されているフードバンク仙台の活動をこちらからご覧いただけます



タドラーの一日

入園して2カ月、はじめは緊張やおうちの方から離れる不安で涙を流していた子どもたちも、保育室やホール、戸外と遊び場が広がっていくたびに笑顔がどんどん増えてきました。今ではみんな笑顔で登園し、かわいらしいあいさつを聞かせてくれます。



お友達と

クラスのお友達にも目が向き始めています。小さいなりに「毎日一緒に過ごすお友達」という意識があって、欠席の子を心配したり、「〇〇ちゃん」と名前を呼んで遊ぶなど、お友達との関わりも見られるようになりました。



保育中の様子

着替えや手洗いなどにも先生と一緒に挑戦しています。「自分でやりたい」「手伝ってほしい」という子どもたちの気持ちを大切にしながら一人一人に合わせた保育ができるよう、丁寧に関わっています。



英語の時間

タドラークラスでは、1学期10分から始まり、徐々に時間を延ばして3学期には約20分の英語の時間を設けます。英語の先生と歌を歌ったり、絵本を読んでもらいながら、自然に英語に慣れていく様子が見られます。「次はなんだろう?」と目をキラキラさせて参加しています。



昼食の様子

昼食の時間では、準備を整えた後にお祈りの歌を歌ってごあいさつする姿がとってもかわいらしいです。お弁当でも給食でも「おいしいね」と言い合いながら、先生やお友達と一緒に楽しく昼食をとっています。



デイケアを利用している子どもたちは、先生やお友達と遊んだりおやつを食べたりしながら、元気にお迎えを待っています!

高森タドラークラス担任 今野 美奈



丸山タドラークラス担任 太田 雅美



プレミアスクール 20周年

保護者の信頼と協力とともに歩んだ20年
園長 ダニエル・ファンガー

今からちょうど20年前の2005年、私は宮城明泉学園の園長に就任することが内定しており、その準備として保護者アンケートを実施しました。英語教育への満足度は予想したほどには高くなく、特にスピーキングを含む実践的な英語力を求める声が多く寄せられました。

この結果を受けて理事会で協議がなされ、バイリンガル育成を目指す新コースの設立が決定。私が準備を担当し、前園長フィリップ・ブローマン先生と協力しながら、「明泉イマージョンクラス」が2006年度にスタートしました。

秋の説明会には400名以上の保護者が参加し、高い期待を実感しました。初年度はまず高森で開設し、2年目から丸山でと計画しましたが、丸山の保護者から強い要望があり、丸山年少園児17名も高森で受け入れ、初年度は3クラス49名でのスタートとなりました。

カリキュラムは、アメリカの専門家ロレッタ・クーサク氏の協力のもと、同時期に開発が進められていたGrapeSEEDを軸に構築。学年ごとにテーマを設け、

理科や社会など他教科の学習も盛り込んで英語力を総合的に育てる内容へと発展させました。毎年、翌年度の教材を準備しながら既存学年の内容も常に改良するという試行錯誤の連続でした。15年たった第1期生がハイスクールを卒業する2020年に、ようやくひととりのカリキュラムが完成しました。

こうして、多くの保護者の皆様のご支援のもと、プレミアスクールは20周年を迎えました。特に創成期に参加して下さった皆様の信頼とご協力に、心より感謝いたします。

あの1回生も今年で24歳。これからは、プレミアの卒業生たちが、社会へ羽ばたき、日本をはじめ世界のさまざまな場で活躍してくれることを、心から楽しみにしております。



愛と学びの20年を祝して：明泉プレミアスクールの歩み

ロレッタ・クーサク先生



2025年5月 丸山ドルフィンズクラス

私は当時、幼稚園教員を引退すると決めており、この意義ある新たな取り組みに関われることに喜びを感じていました。また、教室の設営にも携わり、子どもたちの目を輝かせるような、英語環境らしい温かく迎入れる空間になるよう心を配りました。



初期のころのカリキュラム策定会議

愛に基づいて

新しいカリキュラムに沿って教師を研修・指導することは、まさに愛の労苦でした。子どもたちの学びを最大限に引き出すためには、丁寧で正確な指導が求められました。教師たちは新しい教材を習得するだけでなく、新しい教育方法にも素晴らしい献身をもって順応しました。彼らの努力と丁寧なフィードバックにより、私たちはさらにプログラムを洗練させることができました。

このイマージョン・カリキュラムは、最初から愛によって形づくられてきました。子どもたちへの愛、そして彼らの無限の可能性への信頼。愛は、プログラムに強さと美しさを織り込む見えない糸です。明泉の教師たちは、教えることへの情熱と、託された子ども一人一人への揺るぎない愛をもってプログラムを運営しています。

喜びの再訪

8年ぶりに明泉に戻って、私が目にしたのは、教師たちがプログラムの精神と技術を守り続けている姿でした。教室には今も英語、笑い声、好奇心、そして喜びが満ちあふれていました。英語イマージョンプログラムは、単に存続しているだけでなく、見事に花開いていたのです。

この優れた英語イマージョンプログラムが生き生きと成長している姿を目にすることができたのは、愛と献身が築き上げた証しとして、まさに光栄でした。

これからも、夢がかなえられ、子どもたちが刺激を受け、愛に満たされる人生が広がっていきますように。

驚くばかり!

それが、私が明泉学園について思い浮かべる最初の言葉です。今年の4月、私は2017年以来初めて明泉を訪れる機会と喜びに恵まれました。当時、私はカリキュラムの作成、開発、教師トレーナーの仕事を終えたところでしたが、その後も明泉は私の心から離れたことはありませんでした。

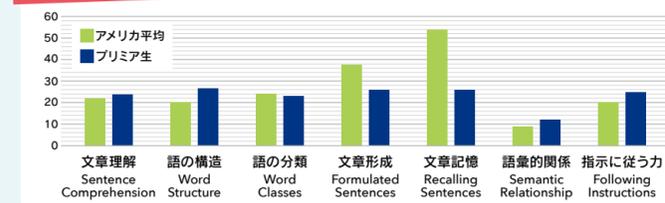
振り返ると、ワシントン州で幼稚園の教員をしていたときのことを今でも鮮明に覚えています。ジャン・ブローマン理事長が私の教室を見学に訪れたのをきっかけに、素晴らしいパートナーシップが始まり、私の教育活動や指導方法について、明泉の保護者に話してほしいと招待してくれました。まさに光栄なことでした。

土台づくり

2005年、明泉が英語イマージョンプログラムのための教育教材を購入するためにシアトルを訪れ、私も同行して最良の教材を選びました。その際、明泉にまだカリキュラムがないことを知り、作成のお手伝いをする事となりました。それからはダニエル・ハワード博士や明泉のスタッフと密接に協力しながらカリキュラムの構築が加速しました。

プレミアスクールでの英語学習成果

CELF テストの結果



アメリカの教育サービス企業「ピアソン」が開発した評価ツール「Clinical Evaluation of Language Fundamentals (以下、CELF)」を用いて、2014年と2017年にG5を対象に英語の能力評価を実施。同年齢のアメリカ人と比較して、差が見られたテスト項目もありましたが、ネイティブの平均値を上回った項目もあり、プレミアでの学習効果が数値でも明らかになりました。

※CELFは言語能力を総合的に評価するテストで、検査者が子どもと1対1で口頭問題や目で見て答える問題を実施し、テスト項目別に評価します。CELFはアメリカの公立学校でも用いられているテストです。

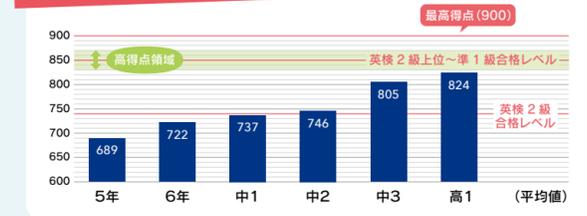
右のグラフは、プレミア生のTOEFL Junior試験における平均点を示しています。5・6年生には、事前の予告や試験対策を行わず、全員に対してTOEFL Juniorのテストを実施しています。一方で、中学1年生以上の生徒は、自ら申し込んで受験しています。

中学1年生の平均スコアである740点は、英検では2級合格レベルに相当すると考えられており、このレベルは日本の多くの大学入試の英語試験において合格ラインとされる水準です。

また、毎年、5・6年生の中には850点前後の高得点を取る生徒もおり、これは英検で言えば2級上位～準1級合格レベルに相当すると言われています。このスコアは、多くの大学の総合型選抜や帰国生入試、一部の推薦入試で求められる英語基準であり、私立大学における英語試験の加点や免除の対象にもなります。

さらに、過去には895点(1問のみ誤答)を記録した生徒が複数います。また、満点である900点を取得した6年生男子もいて、運営団体から特別表彰を受けました。これは英検準1級～1級に相当するとされる非常に高

TOEFL Junior テストの結果



い英語力を示しており、実際にプレミアの5・6年生からは英検準1級に合格する生徒が複数出ています。中には、中学1年生で英検1級に合格した生徒もいます。

プレミアスクールでは、英語でのコミュニケーション力の育成に最も力を入れていますが、それに加えて、総合的な英語力も自然と身につけており、その成果がこのような試験での好成績に表れていると言えるでしょう。

英語の大会や検定試験でもプレミア生が活躍



第41回高校生英語弁論大会
外務大臣賞 (全国第1位)
うちがさき たいと
内ヶ崎 大斗 (Wes)



第44回高校生英語弁論大会
外務大臣賞 (全国第1位)
さいとう しおん
齋藤 汐音 (Ariel)



第12回ウルスラ英智イングリッシュコンテスト
主張 [Speechの部] 最優秀賞
えんどう けんすけ
遠藤 賢介 (Sid)



2023年度第3回英検1級の
小中学生受験者のうち
トップスコア合格者に贈られる
カナダ大使賞を受賞
みづら
三浦 オリザ (Oriza)

2期生の江種大介さんはエレメンタリー卒業後にカナダに留学し、現在はアメリカのナザレス・カレッジ(ニューヨーク州)のアイスホッケーチームでプレーしており、2022年にはU-20日本代表にも選ばれました。こちらからプレミアスクールについてのインタビュー動画をご覧ください。



From King's Elementary School in Seattle

文化の違いを超えた

友情の贈り物

King's Elementary School 校長
Evelyn Huling (エヴァリン・フリング)さん

ワシントン州シアトルにあるKing's Elementary School (以下、キングス)は、この14年間、毎年春に明泉プレミアスクールの5年生を受け入れるという貴重な経験をさせてもらっています(2012～2019年は4年生が参加)。今ではみんなが心待ちにするほどの重要な恒例行事となり、その年一番のビッグイベントと言っても過言ではないでしょう。

この経験は、生徒や家族、それぞれの文化、クリスチャンとしての愛とホスピタリティによって作り上げられてきた深いつながりがあるからこそ、特別なものとなっ

ています。キングスの保護者は毎年喜んでホストファミリーに名乗りを上げ、単なるステイ先としてではなく、アメリカ人の日常生活を信仰と友情というレンズを通して垣間見ることができるよう、プレミア生を迎えています。学校体験では、プレミア生がキングスの生徒とペアを組んで授業に参加し、課題にも取り組みます。その中でプレミア生は、次第にアメリカの小学校らしい会話のリズムで英語を話すようになります。

楽しい体験は放課後も続きます。ホストファミリーは、コースグループの集まりやスポーツイベント、ピュージェット湾のビーチに行ったり、外食したりするなど、アメリカならではの体験を用意しています。ここでもやはり、支えとなるのは人と人との関係です。

1週間の間に生まれたプレミア生と私たちの間の絆は、一緒に活動しただけで形づくられたものではありません。言葉や文化の壁を超えた友情なのです。プレミア生が別れに「Friends Forever (友よ永遠に)」を歌

い、ミラクルランチキャンプへと出発します。生徒のみならず教職員まで感情がゆさぶられ、涙がこぼれます。隣人愛や他者から学ぶ喜び、国際社会の一員であることのすばらしさを実感し、これからずっと続く何かの心に芽生えた瞬間です。マタイの福音書22章37～39節にあるように、最も重要な戒めは神を愛し、隣人を愛することです。プレミア生と過ごす1週間は、「隣人」が場所によって左右されるものではないことを思い出させてくれます。道を隔てても海を隔てても、私たちはみな神の世界の一部であり、互いに愛し合い、学び合い、仕え合うよう求められています。

この機会は単なる海外研修プログラムの域を超え、ホスピタリティと文化交流の尊さ、そしてキリストの愛が示される生きた証しなのです。毎年の交流に心から感謝しています。



後列左から3番目がエヴァリン校長

世界への扉を開いたプリミアスクール

和^{わだ}拓^{たく}己^きさん・里^り香^かさん

洗^こ輝^き君^{くん} (1期生 Grant)・京^{きょう}花^かさん (4期生 Brenda) 保護者

プリミアスクールが新設されることを知り、「仙台から世界への扉が開く」と感じたことが入園を決めた理由でした。成功事例がなく、教材も手作り感のある中でのスタートでしたが、それが逆にこのプログラムと一緒に作っていきけるというワクワクにもつながりました。

息子も楽しく通いながら、プリミアの1期生としてのプライドを持ち、エレメンタリーでも6年間の皆勤賞をいただくほど、楽しみながら学び続けました。「プリミアは必ず成功する」ということを体現したかった想いも本人にはあったことでしょう。

中学の夏休みにオーストラリアへ3週間の留学、高校では1年間の米国スクラメントへの留学を経験。親としては、留学を通して逆に日本という国に誇りを持ってもらいたい、また、中にいると気づきにくい日本のすばらしさにも、自分の言葉で語る機会を得て理解が進むことを期待していました。そして、もともと優しい子ですが、さらに他者を思いやる気持ちが育つことを期待して、自分



プリミアのクリスマスパーティー (2010年)



大学の卒業式にて家族と(2025年)

がマイノリティーになることで多様な物事の見方を体験してほしいとも考えていました。

そうした経験を通して、息子は米国フロリダの大学に進学することを決意し渡米。大学ではペルー、スペイン、台湾、ベトナム、インド、コロンビアなど多国籍の友人・知人、そして日本人留学生とも交流を深め、世界をより身近に感じていたようです。スペイン語の授業も取り、「初めて外国語を学ぶ気分」と言っていたことは新鮮でした。そのような環境での学びを終えて迎えた卒業式。家族全員で駆けつけることもできました。慣れない土地でも良い仲間に出会い、かけがえのない4年間を過ごしてきたそのたくましさと思えない努力に感動しました。

間違いなくプリミアとの出会いが「世界への扉を開いてくれた」と実感しています。

子どもたち3人が大きな経験を得たシアトル研修

のべ15年をプリミアスクールとともに

菊^{きく}池^ち拓^{たく}哉^やさん・智^ち香^か子^こさん

凱^{がい}君^{くん} (4期生 Pete)・慧^{けい}君^{くん} (10期生 Gregory)・麗^{れい}さん (高森G6 Hope) 保護者

プリミアスクール20周年の記念に際して、このたび、3人の子どもたちがプリミアスクールで過ごした日々を振り返り、感謝の気持ちと思い出をつづらせていただきます。

我が家では、長男(4期生)、次男(10期生)、そして長女が現在G6(13期生)で、今年3月にはシアトル研修旅行に参加してきました。気づけば15年以上にわたり、家族みんなでプリミアスクールと共に歩んできたように思います。

入園を決めた一番の理由は、1日の保育時間の大半を英語で過ごすという環境でした。ネイティブの先生とのやりとりを通して、子どもたちは日常から自然に英語を吸収していきました。また、日本語教育にも力を入れてくださったことも大き



長男のK4入園式

な魅力でした。英語だけでなく、日本語の読み書きや表現力、歌なども大切に育てていただけたことに、とても感謝しています。

さらに、卒園後も通える継続的なカリキュラムがあったことで、子どもたちは楽しみながら英語力を伸ばしていくことができました。長女がシアトル研修旅行でホストファミリーと過ごした時間は充実していたようで、「とても楽しかった」「帰るのが寂しかった」と話していました。King's Schoolでは現地の同年代の子たちと友達になり、一緒に授業を受けたり、遊んだりする中で、自分の英語がちゃんと通じることに喜びと自信も感じたようです。帰国後も「またアメリカ行きたい!」と話してくれました。

プリミアスクールで過ごした日々は、子どもたちにとっても私たち家族にとっても、かけがえのない時間です。たくさんの経験と学びを与えてくださった先生方に、心から感謝申し上げます。

これからもプリミアスクールが、子どもたちの夢と未来を育む場として、ますます発展されることをお祈りしています。



次男のエレメンタリー卒業式

今でも続く1期生や先生方とのつながり

プリミアスクール1期生 高^{たかし}橋^{かず}和^き希^き (Eddie)

大人になればなるほど、プリミアスクールに入ってよかったと感じています。1期生は今でも定期的と一緒に遊んだり、もうすぐ20年の仲になります。大学1年の時はコロナ禍の最中で、入学式もできず授業も始まりませんでした。そこで明泉に遊びに行ったら、先生方全員が覚えていてくださり、急遽1カ月ほどボランティアでプリミアの授業に入らせていただきました。明泉で出会った人たちは、今でも家族のように思える存在です。

プリミアでの生活を通して、英語力はもちろんですが、価値観や考え方などの潜在的な面も大きく影響を受けたと思います。幼い頃から海外文化に触れられたので、海外に抵抗感を抱くより



エレメンタリーでの馬乗り

友人との台湾旅行

先に、興味・関心を持つことができました。大学では観光学という、裾野が広くグローバルな分野を学び、世界に目を向けながらフランス語や中国語、韓国語も学んで話せるようになりました。

プリミア卒業生の話や聞くと、海外志向でグローバルに活躍している人がたくさんいます。これは、プリミアスクールでの「オール英語生活」と「海外研修・留学プログラム」の効果に他なりません。オール英語の生活は、英語で伝える難しさがある一方で、英語力向上にはとても優れた環境でした。英語が出てこなくて日本語を使って注意されることもありましたが、そのルールがあったことで咄^{とつ}嗟^さに出るリアクションも英語になっていたような気がします。シアトル研修では、海外生活を通して文化の違いを知ることができました。ホストファミリーの家のピリヤードや草原のような庭で遊んだりなど、すべてにおいてスクールは段違いで、特に食生活は一つ一つのサイズが大きく、太って帰ってきて両親に「丸くなったね」と言われたのを記憶しています。

このような環境で幼い頃から英語を楽しく学ぶことができ、自然な英語を話せるようになったと同時に、夢や選択の幅を広げることができたと思っています。この3月に大学を卒業し、日本で不動産会社に就職しました。今は海外事業に携わることを目標に、日々経験を積んでいます。

国際教養大学での学びの原点

プリミアスクール4期生 庄^{しょう}子^じ百^{もも}花^は (Patricia)

皆さん、こんにちは。丸山プリミアスクール4期生の庄子百花です。2010年にK4に入園し、エレメンタリーを経て2022年にハイスクールを卒業しました。現在は国際教養大学に在学しています。

そんな私の原点は、やはり明泉で過ごした幼少期にあります。まだ日本語もおぼつかない頃に英語の授業が始まり、最初は何が起きているのか全くわかりませんでした。でも「教室では日本語禁止」というルールだけは理解していて、先生の言葉を繰り返すうちに他の単語の読み方や意味を少しずつつかめるようになっていました。

エレメンタリーに上がると本格的にライティングも始まり、最初は自分の間違いがわからず苦戦しました。それでも先生と話しながら学ぶうちに、徐々に身につけていきました。難しい文法も、GrapeSEEDの教材によって楽しい音楽や挿絵とともに自然と覚えられたことが特に印象に残っています。

中学生になると英語は得意科目となり、中学では英語弁論大会にも出場し、それまで学んできたことを発揮する機会にも恵まれました。私は明泉バスが来ない地域から通っていたため、部活動や課題と両立しながら通い続けるのは大変でしたが、「将来は海外で活躍したい」という夢を支えに、がんばることがで



K4入園式にて

大学のアルティメットフリスビー部 (前列の左から2番目、11番のユニフォーム)

きました。毎日送迎してくれた家族の支えがあつてこそ今の私があると思っています。

現在は、英語を生かして学べる環境である国際教養大学に在学し、世界中から集まった留学生とともに学んでいます。将来は海外の企業に勤めて、海外と日本をつなぐ仕事がしたいと考えています。プリミアスクールに通っていなければきっとこのような進路は選んでいなかったと思うほど、私にとってプリミアスクールは大きな存在です。

出会えたすべての先生方、友達、そして長年支えてくれた家族にとっても感謝しています。これからも、プリミアスクールで学んだことを胸に、自分の夢に向かって一歩ずつ進んでいきます。

From King's School Teacher/Host Mother

プリミア生と過ごす時間は 毎年の宝物に

King's Elementary School 3年生担任 Sarah Cordova (セーラ・コルドヴァ) さん



King's Elementary School (以下、キングス)で3年生のクラスを担当しているセーラ・コルドヴァです。娘のカイリー (Kylie 17歳) は1年生から、息子のブレイドン (Braydon 14歳) も幼稚園の時からキングスに通っていて、キングスを中心とした地域コミュニティでさまざまな活動をしています。

私はプリミア生の学校体験を自分のクラスで受け入れているほか、ホストファミリーとしてホームステイも受け入れています。プリミア生を我が家に迎えられることはとても光栄で、これまで3回ホストファミリーをしました。娘も息子も、日本から訪れるプリミア生と心を交わしながら、日本の文化を知ることのできる機会を毎回楽しんでいます。

ホームステイの間は、アメリカならではの食事を紹介したり、プリミア生が持ってきてくれた日本のスナック菓子を一緒に食べてみると、彼らも家族の一員として過ごしてくれています。

また、プリミア生の学校体験は私のクラスの生徒にとっても貴重な経験になっていて、非常にうれしいです。生徒は毎年、明泉からの新しい友達と過ごす4日間をとても楽しんでいて、一緒にさまざまな経験をしたいと考えています。教室での勉強や休憩時間の遊びの中で、お互いの文化の共通点と異なる点を教え合い、コミュニケーションを満喫しています。

プリミア生との交流は、もはや私の3年生にとって毎年恒例の大切なイベントと言っても過言ではありません。キングスと明泉のかけがえのないパートナーシップは、ホームステイと学校体験を通して日米の子どもたちにまたとない経験を与えてくれているのです。

私にとっても、プリミア生の滞在は1年の中で大好きな時間であり、今まで明泉と紡いできた思い出は心を豊かにしてくれます。これからも他では味わえない経験ができることを楽しみに、プリミア生の到着を心待ちにしています。

From Host Family

シアトル研修での交流から 仙台での再会が実現

Hoskinson Family (ホスキンソン・ファミリー)



(写真左から) お母さんのジェイミーさん、アリー (14歳)、ジャック、ベネット、ヘイデン、お父さんのマットさん

キングススクールには、シアトル研修旅行をサポートしてきた長い歴史があります。そして今年7月にキングス初の試みとして、高等部の生徒が日本を訪ね、明泉の生徒のご家庭で4日間のホームステイを体験することになりました。

息子のヘイデン (Hayden 18歳) とジャック (Jack 16歳) もそのプログラムに参加します。息子たちは日本に行けることになって大喜びし、日本語の勉強をがんばっています。

今年の3月にプリミア生のホストファミリーをしたことは、息子たちが日本に行く前に明泉とつながる最高の機会になりました。我が家に来てくれたのは丸山プリミアの市川大貴君 (Max) と鈴木隆之介君 (Randy) で、ベネット (Bennett 11歳) は新しい親友ができたと感じたようです。互いに関心のあることやゲーム、スポーツで盛り上がり、大好物のケンタッキーフライドチキンを食べたりして、最高の時間を過ごしていました。

シアトルで人気の観光名所パラード・ロックス (船が通航する水路) にも行きましたし、我が家お気に入りのボードゲーム「Sequence」や犬のチェスターも紹介しました。

2人は何に対しても興味を持ってきて、私たちが料理した食事も喜んで食べ、私たちも2人がお土産に持ってきてくれた日本の食べ物を楽しみました。日本の暮らしの話はとても興味深く、子どもたちは日本の文化を知ることとても楽しんでいました。

MaxとRandyのおかげで、息子たちは日本への旅行をもっと楽しみに感じるようになり、3日間の文化的な交流は本当にすばらしかったです。

ホームステイが終わって別れを告げる時は悲しかったですが、息子たちは夏に仙台で再会できることを心待ちにしています。

シアトルでプリミア生と交流できたことを明泉学園に心から感謝しています!